

令和3年度 創形美術学校
項目別・学校自己評価表

実施日：令和4年6月18日

本物にふれる 本当の力をつける



目 次

1	1. 学校の教育目標
	2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
	3. 評価項目の達成及び取組状況
	(1) 教育理念・目標
2	(2) 学校運営
	(3) 教育活動
3	(4) 学修成果
4	(5) 学生支援
	(6) 教育環境
5	(7) 学生受入募集
	(8) 財務
6	(9) 法令遵守
	(10) 社会貢献・地域貢献
7	(11) 国際交流
	4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
	(1) 教育評価
	(2) 財務評価
	(3) 自己評価
8	5. 学校自己評価委員の評価結果について

1. 学校の教育目標

本校は広く美術造形・デザイン全般に関する高度な学理と技能の教授、あわせてグローバルな社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れたクリエイターを育成する。それによって日本文化の発展に貢献することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学習効果の可視化と情報公開の推進
- (2) 入学試験制度の改革
- (3) 社会貢献・地域貢献活動の推進
- (4) アトリエ環境の充実
- (5) 社会人教室の実施

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 学校の理念・教育目標・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○ 学校の特色は示されているか	④	3	2	1
○ 学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○ 学校の理念・教育目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
○ 各学科の教育目標、育成人材像が方向づけられているか	④	3	2	1

〈課題〉

コロナ禍を見据えた人材育成の目標達成を図ったカリキュラムの定期的な再点検。

学生自ら掲げた目標へ到達できるよう自主性の育成強化。

高校卒業者のみではなく、幅広い年齢層へ向けた教育提供の長期計画立案。

〈今後の改善方策〉

研究科、社会人教室などの充実を図る。

〈特記事項〉

学習効果の可視化を行い、全教員の情報共有と教育方針の統一を確認。

(2) 学校運営

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 意思決定システムは整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課題〉

次年度におけるカリキュラム策定期間の前倒し。

教育活動等に関する情報公開をさらに強化する。

〈今後の改善方策〉

アトリエの快適化、及び効率化。IT化へのさらなる強化と推進。

就業規則の改訂。防災対策の整備を進める。各課担当部署による計画立案と目標達成の確認、情報共有を定期的に実施。

〈特記事項〉

2022年度より授業時間を1限目 9:20~10:50/2限目 11:00~12:30/3・4限目 13:30~16:30に改める。

2023年度より「絵画造形専攻」「アニメーション&コミック専攻」を「絵画専攻」「メディアデザイン専攻」に改める。

新型コロナウイルス陽性者、濃厚接触者へのサポートを積極的に実施。

感染症対策を厳しく実施。学内感染をゼロに抑え、自宅待機学生にはリモート授業等で授業遅れの不安を解消する。

(3) 教育活動

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件が体系的な位置づけにあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

キャリア教育、就職活動学生へのサポートの充実。
フリーランス活動を志望する学生に対してのサポートも強化が必要。

〈今後の改善方策〉

キャリア教育の更なる充実を図り、指導を強化する。

〈特記事項〉

出席率85%を最低ラインとして明文化し、成績及び出席率低下の傾向が見られる学生には、早期に面談・注意指導を実施。

(4) 学修成果

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 就職率を向上させるための施策は図られているか	4	③	2	1
○ 学習成果の可視化が図られているか	④	3	2	1
○ 退学率を低減するための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
○ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

〈課題〉

1年次より就職に対する意識向上を図る必要がある。
卒業生との交流の機会をリモートも含め強化。

〈今後の改善方策〉

引続き卒業生の近況情報の把握。
卒業生との交流の場の復活。

〈特記事項〉

学習成果を可視化したデータを教員全員が活用。指導に活かせるようになった。

(5) 学生支援

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
○ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
○ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○ 卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
○ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1

〈課題〉

メンタルヘルスに問題を抱える学生への対応強化。

〈今後の改善方策〉

「学生便覧」の全面改訂。

業界、外部関係者と連携を図りながら学生支援、就職支援を強化、改善していく。新たに就職相談室を開設し、より相談しやすい体制を整える必要がある。

メンタルクリニックの斡旋、紹介などのサポートを強化。

〈特記事項〉

パソコン、撮影機材の貸出など支援策を実施。

学生へのレンタルパソコンの補償制度に加入。万が一の補償を充実させる。

(6) 教育環境

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
○ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○ 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

〈課題〉

地震など災害時の保護者との連絡方法など、防災対策の啓蒙活動を強化する必要がある。

〈今後の改善方策〉

大型修繕に備えて綿密な計画立案。

災害時帰宅困難者へ向けて備蓄品の充実。

CO2削減へ向けての長期計画の推進。

感染症対策における衛生面のさらなる強化。

コロナ後の海外研修生の支援体制の連携と強化。

〈特記事項〉

外部関係者と連携し、パソコンなどIT環境の充実を図る。

防災活動の地震対策を強化する。

(7) 学生受入募集

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○ 入学選考の時期、基準、方法は適正に行われているか	④	3	2	1
○ 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

〈課題〉

コロナ禍の影響を受け、地方からの入学者、及び留学生が減少する。

留学生に対する募集活動の強化。

〈今後の改善方策〉

今後の少子化対策も見据え、広報活動の見直しを図る。高校2年生、既卒者へ対しての広報強化。

研究科、社会人教室の募集活動の強化。

〈特記事項〉

留学生受け入れに関し、日本語学校との連携強化を図る。

(8) 財務

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 中、長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
○ 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

〈課題〉

既卒者等19歳以上の入学生の増加を図る。

研究科、社会人教室の募集活動の推進と強化。

〈今後の改善方策〉

社会人教室の広報活動の強化。

〈特記事項〉

コロナ禍2年目に入り、その影響が顕在化。対策が急務。

(9) 法令遵守

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価の実施と問題点の改善を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価結果を公開しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

学校評価においては、今後第三者評価による点検を推進することが課題。

〈今後の改善方策〉

第三者評価による点検を図る。

〈特記事項〉

特に無し。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課題〉

コロナ禍の影響により、社会貢献活動・地域貢献活動、公開講座などの機会が度々奪われる。

〈今後の改善方策〉

2022年度、豊島区区制90周年に合わせ、更なる社会貢献・地域貢献活動の創出。

豊島区アート・カルチャー特命学生大使の活動のサポート強化を図る。

〈特記事項〉

東急ハンズ 池袋店閉店に伴い、閉店イベントにボランティアとして参加。店舗の壁画を制作。

防災女子株式会社と連携し、女性向け防災グッズの開発にコンクール形式で参加。商品化となる。

引き続き日本デザイン団体協議会(D-8)のシンポジウムにボランティアとして参加。コロナ感染対策の一翼を担い、協議会より多大なる感謝と評価を得る。

(11) 国際交流

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
○ 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
○ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

〈課題〉

コロナ禍の影響により、留学研修制度の派遣、海外アーティストの招聘などの一部行事が中止となる。
留学生応募者の減少。

〈今後の改善方策〉

留学研修制度や海外アーティストをリモートなどを使用し、招聘の充実。

〈特記事項〉

特に無し。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

本校は、美術・デザインの造形教育アカデミーとして数多くの優れた人材を輩出してきた。社会人としての自覚・責任を抱き、時代の大きな変化にも対応できる柔軟性と応用力を兼ね備えた人材育成に努めている。常に時代の一步先を見据えたカリキュラムを組み、最近ではデザイン思考や先端メディア、ITを学ぶ授業など、先端教育をより効果的な指導方法で取り組み、教育内容の充実と研鑽を図っている。豊島区と連携を図りながらアートと文化、デザインの発展を目指し、またSDGsにも掲げられる「質の高い教育」を全ての年代の人へ向けて提供している。今後は積極的に外部からの意見を取り入れながら、これらの結果の積極的な情報開示と、美術・デザイン・文化の重要性を訴えていかなければならない。

(2) 財務評価

本年度に関しては安定した財務状況であったが、令和4年度学生募集に関し、コロナ禍の影響が現れ、地方出身の高校生や留学生などの出願が若干減少した。しかし、水際対策の緩和から留学生が戻りつつあり、また感染対策は引き続き行う必要はあるものの、経済活動の動きと共に問い合わせ件数の増加があり、回復の兆しがみえる。災害時対応などを常に見直し、対策を強化する必要と、大規模修繕に向けた資金確保が当面の課題となる。

(3) 自己評価

新型コロナ第6波において、初めて本校からも陽性者が出る。年明けには全ての学年で陽性者が出たものの皆、軽度な症状のみで、学内感染は無く、落ち着きを取り戻す。ワクチン接種の推奨と学内での感染対策の徹底が功を奏したかたちとなる。

しかし、昨年度に引き続き、多くのイベントは中止となり、特に3年生は昨年の紙漉き研修旅行に続き、古美術研修旅行も中止、卒業パーティなども中止され、学生生活の彩りを添えることが出来ずに卒業していったのは極めて断腸の思いである。

次年度へ向けての課題として、就職指導の強化は喫緊に取り組むべき課題である。卒業年度での取り組みでは限度があるため、1年次からの強化を推進し、また就職相談室の充実や、求人倍率が戻りつつあるクリエイティブ業界にも、各社への接触を増やし、インターンシップから会社説明会、求人につながるラインづくりの体制が急務となる。コロナの影響を受け、入社試験やテレワークなど会社自体も大きく変化しているため、早急にその対応を行い、スムーズに学生へ指導、またフォローしていくことが重要となる。

少人数制で規模が小さい小回りが効く学校の長所を活かし、就職指導のみならず、常に一歩先の手立てを押し進めていくことが肝要である。

5. 学校自己評価委員の評価結果について

上記報告書は、創形美術学校自己評価委員として、妥当な評価であることを確認し、認めます。

創形美術学校評価委員 令和4年6月18日

高澤学園 理事 創形美術学校 学校長 山本哲次

高澤学園 理事 創形美術学校 主任 工藤礼二郎

創形美術学校 事務長 田村和稔